

【素案】

- 博士課程では、近年、アカデミックな研究職のみならず、企業をはじめとする社会の多様な場で活躍する人材の輩出が期待されてきた。すなわち、アカデミアでは知的価値、社会的価値や経済的価値の基礎となる研究成果を生み出し、産業界ではイノベーション創出の中核を担い、あるいは、産学協働の場では産学にまたがる知識の全体を俯瞰し異分野を融合するリーダーとなる者を育成することが期待されている。
- サイバーセキュリティ研究分野においても、他分野と同様、専門分野の知識や方法論を強みとして身につけることが基本となるが、一定の種々の実社会経験を通じ、経験の幅に加え俯瞰力と独創力を養うことが重要である。インターンシップ、企業との共同研究、社会人ドクターとの深いディスカッションの実施等が考えられ、大学と企業が一体となって育成を行うことも考えられる。
- その際、サイバーセキュリティ対策につきCSIRT等の現場経験のない学生にはそれに触れる機会を創出・拡大し、DXやIT活用につき企業の現場経験のない学生にはそれに触れる機会を創出・拡大するなど、サイバーセキュリティとDX・IT活用の両面から機会の創出・拡大を図ることが望ましい。研究室や大学内の研究組織で産学連携や学内連携を模索することがまず考えられるが、大学を超えた研究室・研究組織の広域連携により、そのような機会を創出・拡大することも考えられる。

（こういった表現でよいか。
記述すべき具体例はさらにないか。）

プロシーディングに係る議論の整理素案

【素案】

- 研究者の研究実績として評価されるものとして、論文誌(ジャーナル)での論文成果(ジャーナル論文)と研究集会(カンファレンス)での論文成果(プロシーディング論文)がある。
- プロシーディング論文は、査読・フィードバック・掲載が迅速であることから、研究の進展が速いIT・セキュリティ研究分野において馴染みが深く、中でも査読付きで評価の高いものは、国際通用性のある研究実績とされることが多い。実際、海外ではトップ級のカンファレンスでの論文成果が評価され、近年は日本からも重要なカンファレンスに投稿されるプロシーディング論文が増えてきている。
- 一方、プロシーディング論文が重要であることは国内の他分野の研究コミュニティからは必ずしも理解されにくい。研究費の申請書においても研究実績はジャーナル論文であることが前提であるかのように誤解しうる記入例が示されている事例が存在する。本来はどのような実績を評価するのかについてはそれぞれの研究コミュニティにおいて判断されるべきものではあるが、特にIT・セキュリティ研究分野では、査読付きで研究コミュニティ内でも評価の高いプロシーディング論文が研究業績として適切に認められることが、研究者にとって、さらには当該分野の発展にとって、極めて重要である。また、それが分野の内外に伝わるよう、積極的に発信する必要がある。
- このため、IT・セキュリティ研究分野では、ファンディング機関等における研究費申請書において、プロシーディング論文も研究実績に含まれる旨を明確化すべきである。

(注釈)

国およびファンディング機関における研究費申請の申請書・記入要領において、「IT・セキュリティ研究分野ではプロシーディング論文も実績として含む」という明確な注意書きを記載する。

〔こういった表現でよいか〕